学習活動例　特別活動 第５学年　　　　　　　　　【学習指導要領との関連 新2(2)ウ　現行2(2)カ】

|  |  |
| --- | --- |
| 題材名 | 場合に応じて安全に避難しよう　　　　　　　　　　　　　　　　本時１／１時間 |
| 本時のねらい |  本時の授業で育成を目指すプログラミング教育の資質・能力 |
| 災害時に起こりうる危険な状況を予想し，その危険を回避し，安全に行動できる判断力を養う。 | Ｂ３：課題解決の過程で，条件に応じて異なる手順を考えること。 |
| 【関連する資質・能力】Ｂ１：課題解決の過程で，細かく分けて順序立てたり必要な情報を組み合わせたりすること。 |
| 本時のねらいとプログラミング教育とのつながり |
| 本時の学習では，条件に応じて異なる手順を考えるというプログラミングの分岐の考え方を取り入れ，災害時における様々な状況を予想した上で安全に避難する方法を考える活動に取り組む。「もし○○ならば～～する。そうでなければ△△する。」と，災害時の状況を予想し，避難行動を考えることにより，本時のねらいを効果的に達成できると考える。 |
| 準備物 | ワークシート（W5-1），自校の避難経路図，校舎内の避難経路上の写真またはプレゼンテーション資料（Ｐ5-1），付箋紙 |

|  |  |
| --- | --- |
| プログラミング教育に関する活動の流れ（45分） | ●教師の指示※教師の支援◇指導上の留意点 |
| 導入 | １　一次避難の方法と二次避難の避難経路を確認する。２　本時のめあてを確認する。 | ※避難経路図を児童に配付し，教室（あるいは任意の場所）から避難場所に至るまでの避難経路を，フローチャートで確認させる。●「今日は，『もし〇〇だったら～～する。そうでなければ△△する。』と，災害時の状況を予想し，場合に応じた避難行動を考えます。」 |
| 展開 | ３　二次避難の方法を考える。(1)　教師が提示した写真の場所について，災害時に予想される状況を考え，発表する。(2)　教師が提示した予想される状況について，自分の避難行動を考え，発表する。４　教師が提示した２箇所について，予想される状況を考え，付箋紙に記入する。５　４で考えた状況を基に，通れるか通れないかの判断や，それぞれの場合の避難行動をグループで話し合い，ワークシートに記入する。６　全体で共有する。 | ◇教師が校舎内の写真を１枚提示し，災害時に予想される状況を全体で考えさせる。●「(例)もし給食室から出火し，炎が廊下まできていたら，どう避難しますか。」◇教師が，災害時に予想される状況を１つに絞って，そのときの避難行動を考えさせる。※付箋紙に書かれた予想される状況で，正規の避難経路を通ることができるかどうかを考えさせる。※通れない場合の経路をフローチャートに表すように伝える。通れる場合は，どのようにして通るか考えさせる。 |
| まとめ | ７　本時の振り返りをする。 | ●「災害時には，様々な状況を予想して判断し，行動することが大切ですね。家庭や通学路などでも，『もし〇〇だったら～～する。そうでなければ△△する。』と，災害時の状況を予想し，場合に応じた避難行動できるようにしましょう。」 |
| 【本時と前後する学習活動】 |
|  |

★ワークシート（W5-1）の解答例・使い方　　　　　　　　　　　　　　 　※グループで活動する際は，Ａ３版に拡大印刷し，使用します。

場合に応じて安全にしよう　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　組　　番　名前

めあて　**校庭まで避難する中で，どんな判断と行動をするか考えよう。**

**多目的室１を出る**

写真

通れないときのルート

**西階段**

**２階南ろうか**

この場所は

通れる？

通れる状況

**・手すりがこわれている。**

**・照明が割れて，ガラス片が床に落ちている。**

**東階段**

はい

いいえ

**昇降口**

通れない状況

**・崩れている。**

**・煙や炎が階段まできている。**

児童が考えた予想される状況について書かれた付箋紙を貼る。

グループで話し合い，正規の避難経路を通ることができるものとできないものに分けて貼らせる。

通れないときに，どの経路で校庭まで避難するか，フローチャート用の付箋紙に書かせ，貼らせる。

どうやって通るか？

**ガラス片に気を付けて，焦らずに通る。**

通れる場合に，身の安全を確保して通る方法を書かせる。

場所　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**校庭に整列する**

**「もし○○だったら～～する」をもとに，自分の避難行動を考えることで，実際の災害のときに役立つと思った。**

ふりかえり